



日本共産党
市議会議員団
週刊議会報告
【発行】
岡野長寿
090
2095-5792
三浦とおる
090
1019-8791

「理解が得られない」のになぜ強行!

土堂小 - 12月市議会に、住民・保護者が請願 -

仮設校舎移転案に「反対」が147票 「賛成」は63票
(直近のPTAアンケート)

岡野長寿市議は、まず、地域住民は避難所になつて土堂小学校の存続(現地耐震化)を求めているが、理解が得られていないのか、市教委に質疑を行いました。担当課長の答弁で、2回しか説明会を行っていないことから充分な理解が得られていないことが明らかになりました。

また、同市議は、保護者の理解が得られていないのか、工事車両も入ること、財政的にも有利な現地耐震化の方法を真摯に検討すべきではないかと質しました。千光寺案では、バス通

「反対」が多数、仮設校舎入札は中断すべきでは?

また、請願者は、現地耐震化が安価にできること、空き教室も増え、居ながら工事が可能であること、振動や騒音のでないウォールソー工法が一般化して

現地耐震化の可能性が検討されていない

不安が解消されない千光寺グラウンド移転案

請願者は、バス通学の不安について、「1便が高須で6時50分、家を6時20分ごろに出なくてはならず、冬は真つ暗、乗り遅れたら暗い中、1時間も待たなければならぬ」「バス停に行く方が遠いので、徒歩通学を希望する家庭もあるが、グラウ

不安が解消されない千光寺グラウンド移転案

16日(水)の民生委員会では、「市独自のPCR検査の拡充を求める請願」が審議され、賛成2、反対4で、賛成少数、残念ながら否決されました。17日(木)の文教委員会では「土堂小問題」について誠実な協議を求める請願」が審議され、3対3の可否同数となり楠本委員長が不採択としました。

「市独自のPCR検査実施を求める請願」を否決 尾道市民の命と健康を守れぬ思い届かず

三浦市議は12月14日に行なわれた民生委員会で、「尾道市独自のPCR検査の実施」を求めました。広島県が独自の施策として、高齢者・障がい者の入所施設の職員に対しての定期検査を行なうようになっていくことを引き合いに出して「尾道市でも市独自に、高齢者のデイサービスを行なっている施設や、訪問介護施設・障がい者の作業所等。また、クラスター発生の心配のある保育・学校等の教育関係施設も定期検査をするべきである」と主張しました。

それに対して理事者側は「限られた医療資源の中で本市としては、検査体制については、具全体で統制のとれた取組みを今後とも行なっていく」との答弁を何回も繰り返していました。

市民有志の皆さんによる「市独自のPCR検査の実施を求める」請願は、民生委員会の採択で賛成少数で民生委員会として請願は否決となりました。尾道市民の命と健康を守れと言いたい思いが、民生委員会で届きませんでした。これからも訴え続けます。

三浦市議、本会議で討論。市独自の施策を行なえ

続いて12月22日の本会議で、請願に対しての採決があり、三浦市議は、請願に賛成の立場で討論に臨みました。「広島県は、遅ればせながら、高齢者・障がい者の入所施設の高齢者・障がい者の定期的な検査を行いはじめました。これは一歩前進ではありますが、まだ、まだ十分ではありません。現在の感染急拡大を抑止するうえで最も重要になるのは、「検査」「保護」「追跡」という感染症対策の基本を抜本的に充実することであると考えます。新型コロナウイルスの症状感染者の一定割合が感染を拡大することはありません。市民の皆さんの命、健康を守るために、尾道市独自の施策を行っていただきたいと思います」と訴えました。

1本会議の採決でも、賛成1人。反対15人で請願は不採択となりました。議会として残念な結果となりました。

また、同市議は、保護者の理解が得られていないのか、工事車両も入ること、財政的にも有利な現地耐震化の方法を真摯に検討すべきではないかと質しました。千光寺案では、バス通

4年間でリース費用が4億円かかり、さらに、合意形成ができなければそれがドンドン膨らむおそれもあります。

同市議は、賛成討論で、市教委の提案は賛成63に對し、反対は147。理解が得られていない。請願の趣旨は、話し合いをして欲しいということ、賛成するのが当然と結びました。

議員団の新春宣伝(予定表)

1月3日(日曜)

因島モール	10時~
瀬戸田支所	10時45分~
向島支所	13時~
尾道駅前	13時40分~
川上口	14時20分~
御調支所	15時15分~